

Z世代に



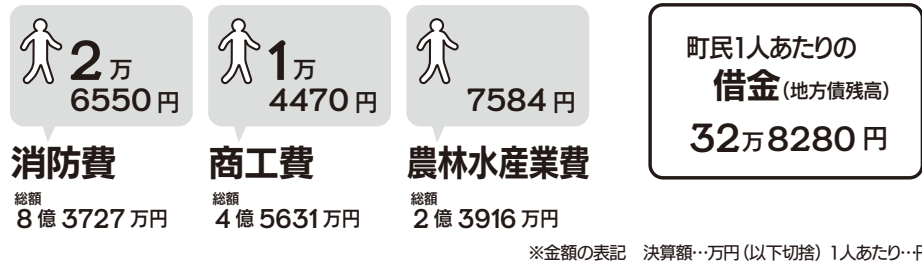
Q Z世代とは…一般的に1995年～2012年頃に生まれた世代（現在のおよそ13歳～30歳前後が該当）。Z世代の特徴…●デジタルネイティブ：幼少期からスマホやインターネット・SNSが身近 ●多様性の尊重、社会的・環境的意識が高い。●タイパ・コスパ重視：物やサービスを購入する際は、価値や効率を重視。●柔軟な働き方：ワークライフバランス、自己成長を重視、転職や副業も選択肢に

令和7年第3回定例会において、議会は令和6年度決算の認定を可決（賛成13反対2）。議決した議会の平均年齢は65・2歳。そこで、議会の年齢層には無い視点「Z世代」に率直に聴いてみた：町のお金、あなたならどんな風に使う？… タイパ・コスパ重視の世代は、現在の寄居町のお金の使い方をどう見ているのか、「議員の直接取材」で考える。

※議決した9月26日現在

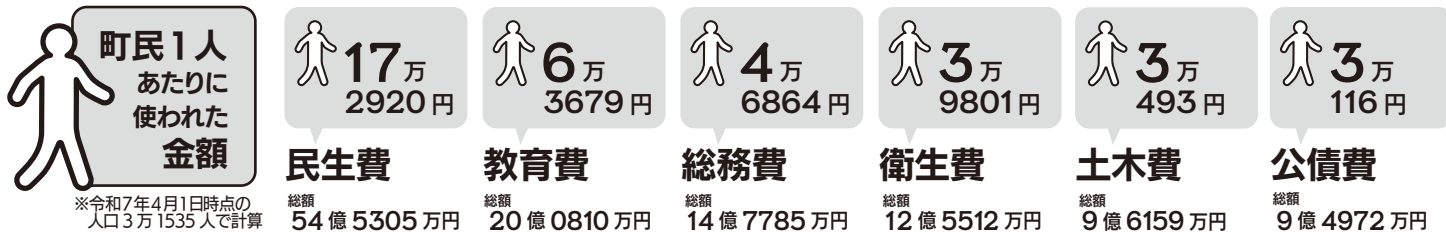
＼単年度で／ 6億4650万円の黒字決算

（1人あたりの負担額に置き換えてみると
町のお金の使い道が少し身近に見えてくる）



寄居町令和6年度 一般会計決算 町税収入は3年連続50億円超

総額 141億9444万7000円 町民1人あたり 45万117円



お「推し活」が生み出す**経済効果**、大きいと思います。



Q 推し活とは…自分が好きな人やキャラクター、場所や食べ物などを応援し、楽しむ活動のこと。好きなものを見たり食べたりすることで元気をもらい、日々の楽しみや生きがいにつながる。

さいとうたくみ
齋藤拓実さん
高齢者施設管理者（桜沢）

もっと新たな視点で

アイドルでも食べ物でも、誰もが何かしらの「好きな人」や「モノ」がありますよね。なんでもいいから、そういう自分の「推し」に夢中になることで、人は元気になるし、経済効果も生まれてくると思うんです。私の職場は一般的に3K（きつい、汚い、危険）と言われますが、例えば「推し活」とのコラボでイメージを一掃したい。この7色の手作りの籠は、11月に開催される産業文化祭に出演予定のアイドルのカラーにあわせて職員や高齢者の皆さんと作りました。自分たちの事業所のブースでの販売を検討中。寄居町を「推し活」の聖地に。まずは自分の発信で始めていきます。

寄居町で生まれて育ち、
そしてこれからのこの
町で暮らしたいと思っ
ます。

税金は「納める・使う」
両方大事。
価値的に使ってほしい。

かとうるな
加藤瑠奈さん
里帰り出産後の育休中（西部）

もっと価値的に

子どもの出産を通し、出産費用や児童手当等が助成されて気づきました。「このお金は自分たちが支払った税金が巡り巡って自分の生活を助けてくれるものなんだ」と。社会保障のありがたみを実感しました。また、その税金の使い方も自治体によって様々。神奈川県で出産し、Uターンした友人は、当時、おむつが1年間無償配布される事業があって助かったそうです。子育て関連の事業も、どの世代に力を入れていくのか精査が必要だと思います。寄居町も、魅力ある独自の子育て支援策で、税金を価値的に使ってもらいたいです。

寄居に里帰りして出産。現在、育休中です。寄居町は生まれてから高校まで過ごしました。自然豊かで人も温かく「帰ってきたくなる」町なんです。

Z世代が子どもの頃と比較してみた ～20年でこう変化～

平成16年度決算（2004年）

財政力指数
0.71
県内48町村中
11位

町の人口 **3万7770人**
歳入 103億6131万円
歳出 99億2787万円
町民1人あたりに使ったお金
26万2850円

令和6年度決算（2025年）

財政力指数
0.76
県内23町村中
4位

町の人口 **3万1535人**
歳入 149億3780万円
歳出 141億9445万円
町民1人あたりに使ったお金
45万117円

聴いてみた